

PDCAチェックシート

実施年度	令和元年度	農地集積集約事業(耕作放棄地対策事業)		担当課名	農林水産課		
【Plan】計画		【Do】実施・実行		【Check】点検・評価			
<p>■目的</p> <p>○耕作放棄地の解消と発生防止に努めるとともに、担い手への農地集積を図る。</p>		<p>■具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業委員・農地利用最適化推進委員による利用状況調査（農地パトロール）を実施している。 ・農地の貸借については、積極的に香川県農地機構を活用し、担い手への農地の集積・集約化に取り組んでいる。 <p>■インプット(投入金額等)</p> <p>事業費等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○荒廃農地等利活用促進事業 306千円 ○農地集積補助金交付事業 3,054千円 <p>■アウトプット(数量等)</p> <p>実施回数等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○荒廃農地等利活用促進事業 2件 34a ○農地集積補助金交付事業 25経営体 1,640a 		<p>■成果指標の具体的検証結果</p> <p>(インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地面積 未達成 耕作放棄地の多くは、農地の位置・形状・面積等の要因で借受見込みがないことから、今後とも荒廃農地等利活用促進事業を活用しながら耕作放棄地解消に努める。また、農業委員会で毎年実施する農地パトロールにおいて、地域の農地利用の確認及び遊休農地の実態把握について積極的に取り組む。 さらに現状の耕作放棄地のみならず、遊休農地のおそれがある農地を早期発見するとともに香川県農地機構等関係機関と連携を図りながら遊休農地の発生防止及び解消に取り組む。 ・担い手への農地集積率 未達成 一部の担い手においては、高齢化・労力不足等の理由から経営面積を減少させている経営体もある。また、規模拡大している経営体についても圃場分散による非効率の発生が集積率増加に影響していることが要因の一つとなっていることから、担い手ごとに農地を集約化できるよう農地の地図化を行い、担い手同士による話し合いがスムーズに進むよう取り組む。 		<p>■検証結果を受けての具体的対応</p> <ol style="list-style-type: none"> ①耕作放棄地面積 これまでの利用状況調査を継続するとともに、遊休農地の発生防止・解消に努める。 ②担い手への農地集積率 新たな対応策として令和2年度～令和3年度にかけて農業委員・農地利用最適化推進委員による戸別意向調査を実施する。集計結果から地域の現状把握するとともに、いま使われている農地を、使えるうちに、香川県農地機構等を活用しながら将来使える人(担い手)へ集積・集約化するようにする。 	
<p>■成果指標(アウトカム・KPI) ※</p> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地面積 43ha ・担い手の農地集積率 29.7% <p>【参考：総合戦略KPI(R6年度末)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地面積 39ha ・担い手の農地集積率 33.7% <p>【達成値(R1実績値)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地面積 45.7ha (前年度比0.1ha減) ・農地集積率 29.2% (前年度比0.4%増 670ha) 							

※KPI…重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。